

知財情報フェアにおける生成 AI による発明発掘と創出

2026 年と 2025 年の展示と発表の比較考察

調査基準日 2026 年 9 月 21 日

GPT-6 Astra

2026 年の大きな変化は、発明発掘・創出 AI の用途が具体化し、研究開発の現場、特許データ、複数の AI、専門家の仕事をつなぐ提案が明確になったことである。2025 年にも、発明案の生成、発明提案書の作成、AI エージェント、特許を起点とする事業創出は既に登場していた。

特に注目される変化は、発明発掘における部門間連携の具体化、複数 AI や周辺発明案生成による発想方法の具体化、特許データベースや既存業務との接続、企業内の知財ノウハウのサービス化、用途探索と次の研究開発の接続である。以下では、展示・発表について確認できる事実と、それに基づく考察を区別する。

1 調査範囲と用語の区分

対象は 2026 年 9 月 16～18 日開催分と、2025 年 9 月 10～12 日開催分である。主催者のプログラム・出展者紹介、出展企業の発表、公開講演資料、開催後の報告を中心に照合した。[\[1\]](#)[\[2\]](#)

2026 年は会期終了直後のため、公開情報は出展・登壇告知が中心である。告知された機能と、当日の実演結果や導入効果が検証されたことは区別する。機能・効果に関する企業の説明は、第三者による同条件の比較試験結果とは扱わない。

表 1 発明発掘と発明創出の区分

区分	本調査での意味	評価の着眼点
発明発掘	研究資料、実験結果、技術者との対話などから、発明として整理すべき工夫を見いだす。	見落としていた技術的特徴を拾えるか。
発明創出	課題に対する新しい解決手段、改良案、周辺発明案などを提案する。	新規性のある、実現可能な技術案につながるか。
提案書や明細書の作成	発明の内容を知財部門や特許事務所が扱える文書にする。	内容の充実なのか、既存内容の文章化なのか。
用途や事業の探索	保有技術や特許から、新用途・新事業の候補を考える。	技術的発明まで進んでいるか、事業仮説の段階か。

発明提案書が自動生成されたことだけでは、新しい発明が創出されたとは評価できない。この区分を用いて、展示の対象工程と成果の性質を確認する。

2 2026 年の展示と発表

出展との結び付きが明確な情報を優先した。製品一般の説明で補ったものは、その位置付けを示した。

表 2 2026 年の主要な関連展示と発表

企業やサービス	確認できる展示と発表内容	発明発掘や創出との関係
NTT データ	発明相談から発明提案書作成までを支援するサービスのデモを案内。技術的な工夫の整理、不足情報・確認観点の提示、研究開発と知財の連携を支援。提供開始予定は 2026 年 10 月以降。[3]	発明発掘・提案書作成。人が持つ知見を引き出す用途を明示。
AI Samurai	発明御三家は GPT・Claude・Gemini による議論、発明ホコタテは基本特許から周辺特許群の案を生成。特許 DB と接続する MCP サーバーも紹介。[4]	発明創出。複数 AI による検討と、特許網を意識した発想支援。
Genzo AI IP エージェント	9 月 16 日のプログラムに知財業務自動化プラットフォームの講演を掲載。製品資料では、開発資料からの発明提案書作成と、人による確認・修正を前提とする設計を説明。[5][6]	発掘・届出・出願支援。企業の知財部門で蓄積した実務をサービス化。機能の詳細は製品資料による補足。
aiip スズエ国際特許事務所	公式出展者紹介で、マインドマップによる発明発掘から明細書作成などを支援する生成 AI サービスを案内。AI 出力を専門家が確認する運用も説明。[7]	発明発掘・文書化。発明の構造化と専門家による確認を組み合わせる。
リーガルテック	9 月 16・17 日のプログラムに、AI エージェントによる研究開発と知財実務の連携事例の講演を掲載。製品一般では MyTokkyo.Ai の発明抽出、研究資料を扱う IPGenius などを展開。[5][8]	研究情報からの発明抽出と業務連携。個々の製品事例を当日すべて紹介したかは未確認。
Patsnap	Eureka と Analytics に加え、MCP による外部 AI・ツールとの接続、Agent Skills による業務の組み込みを出展内容として明記。9 月 16 日に知財・R&D の AI 戦略を発表。[9]	発想・研究開発を支える専門データとエージェントの連携。
amplified ai	9 月 16 日に MCP・API・AI エージェントによる技術知識の連携をテーマとする講演。出展紹介には発明発掘や AI との発想検討などを掲載。[5][7]	発明検討と特許情報の接続基盤。
HackCamp 共創ナビ ivan	特許群から技術・機能を構造化し、複数特許を横断して新用途や事業案を考える手法を案内。用途仮説を R&D との連携や出願へつなげる内容。[10]	用途・事業探索が中心。次の技術開発・発明創出への接続を提示。

企業やサービス	確認できる展示と発表内容	発明発掘や創出との関係
TTDC	AI Samurai との共同出展。生成 AI 製品と、調査・分析・権利化などの専門サービスを組み合わせ、知財総合コンサルティングを紹介。[11]	発掘・創出後の実務まで含めた支援。
Patlytics	出展と 9 月 17 日の講演を確認。イベント案内は特許業務全体の支援、日本語でのドラフト作成などを強調。別の製品資料では、研究資料や音声入力、追加質問から発明届出書を作る機能を説明。[12][13]	発明発掘・届出の入口整備。届出機能の詳細は製品資料による補足で、会場実演範囲は未確認。

このほか、知財コーポレーションも発明発掘・出願サポートと AI・専門家の融合を掲げている。ただし、公開された展示説明からは、生成 AI が発想にどこまで関与するかを具体的に判定できない。[7]

2.1 NTT データの発明発掘支援

NTT データの提案は、研究者の説明をそのまま文章化するだけでなく、不足情報や知財部門の確認観点を提示する設計である。効果として説明されているのも、提案書の作成負荷、追加ヒアリング、部門間のコミュニケーションである。発明発掘を、研究者と知財担当者の共同作業として扱っている点が注目される。会期時点では提供開始前の紹介であった。[3]

2.2 AI Samurai の発明創出機能

発明御三家は複数 LLM の議論、発明ホコタテは基本特許の周囲への発想展開を支援する。同社は後者について、1 件の基本特許から 5～6 件の周辺特許群の案を約 5 分で生成すると説明している。生成されるのは案であり、特許性や技術的成立性、実際の権利範囲が検証された特許網とは区別すべきである。[4]

2.3 HackCamp の講演内容の変更

9 月 7 日付の告知では、9 月 16 日は事業貢献につながる知財戦略と具体的プロセス、9 月 17 日は特許・技術アセットからの新用途探索を扱う。以前の正林国際特許商標事務所との共同講演から内容を変更した旨も明記されている。比較では、この直前告知を優先した。[10]

3 2025 年の展示と発表

2025 年にも、発明発掘・創出に踏み込んだ展示が相当程度存在していた。前年の内容を確認することで、2026 年に初めて登場したものと、継続して具体化されたものを区別できる。

表 3 2025 年の主要な関連展示と発表

企業やサービス	確認できる展示と発表内容	比較上の意味
Axelidea	AXELIDEA Patent による発明アイデア・請求項案などの生成、Patent Flow による特許の活用提案、Patent Spark による発想支援を紹介。[14]	発明創出そのものを掲げる展示が既に存在。

企業やサービス	確認できる展示と発表内容	比較上の意味
TTDC swimy	発明アイデアから図・フローチャート付きの発明提案書を生成し、技術概要から特許分析レポートを作る AI エージェントを発表。化学式・数値範囲への対応も紹介。 [15][16]	エージェント化と複数工程の連携は 2025 年にも存在。
AI データ MyTokkyo.Ai	発明抽出、先行技術調査、発明提案書作成を連続して扱う AI エージェントとして出展。 [17]	発掘から提案書までの一連の処理も前年から提案。
AI Samurai	ONE・ZERO などを出展。発表では、AI が提示した発想に人が追加の創作を行う共創の考え方を説明。 [18][15]	人と AI による発明創出は継続テーマ。
Patsnap Eureka	AI Agents を新製品として紹介。技術テーマの探索、課題分析と解決策の提案、知財保護などを支援する構成。 [19]	R&D と知財をまたぐ AI エージェントも前年に存在。
HackCamp 共創ナビ ivan	企業情報や特許番号から事業案を提示するデモを実施。特許群からのテーマ導出や、三菱電機との事業開発事例を発表。 [20]	知財起点の事業創出には、前年から実演・利用事例が存在。
amplified ai	特許検索からレポート作成までを AI エージェントが行う実演と、明細書作成・ポートフォリオ分析などを紹介。 [15]	特許データ基盤と AI エージェントの融合は継続路線。
NTT データ	初出展。知財特化型 AI とエージェントを組み合わせた基盤、技術探索、社内外データの分析などを案内。 [21]	2026 年の変化は、発明発掘サービスの内容が具体化したこと。
ニーズエクスプローラ	生成 AI によるアイデア出し、調査からの事業案作成、業務への適用支援や PoC を紹介。 [22]	発想法と組織への適用支援も前年から存在。

3.1 利用企業による公開発表

2025 年は製品の販売側だけでなく、利用企業の発表も重要である。9 月 11 日の特別フォーラムで公開された富士通・和泉恭子氏の資料では、知財部門の生成 AI 活用業務として、発明発掘、明細書作成、中間応答が明記されている。社内ツールと外部ツールの利用、人材育成や部門内の知識共有も説明され、前年から企業実務への適用が議論されていた。ただし、発明発掘に関する個別の成果指標は、この公開資料からは確認できない。
[23]

同じフォーラムのダイキン工業の公開資料には、当日のみ掲載する部分が残っている。非公開部分に含まれた可能性がある具体的な発明事例や成果は、公開版から推測して比較しない。
[24]

4 2026 年と 2025 年の比較

今年初めて登場した機能と、前年から存在して今年さらに具体的に提示されたものを分けて評価する。表 4 は前掲の出展・発表情報を比較したものであり、各製品の性能順位を示すものではない。

表 4 両年の展示と発表の差分

比較軸	2025 年の確認事項	2026 年に目立つ具体化	評価
発明発掘	発明抽出・提案書作成が既に製品化・展示。	不足情報の質問、部門間の受け渡し、届出の入口整備。	発掘業務のどこを支援するかが明確化。
発明創出	発想提示、アイデア生成、人と AI の共創。	複数 LLM の議論、基本特許から周辺発明案を生成。	発想を展開する方法の具体化。
AI エージェント	swimy、MyTokkyo.Ai、Eureka、Amplified で確認。	外部ツール・データ・既存業務との接続を強調。	登場の有無より、接続範囲が比較の中心。
特許群の活用	複数特許からのテーマ・事業案導出が存在。	技術・機能の構造化、横断的な用途探索、R&D への接続。	知財情報を次の開発課題へ変換する手順を詳しく提示。
提供主体	ソフトウェア企業、知財サービス企業、コンサルなど。	Genzo AI のように事業会社の知財実務を外部提供。	企業内の実務ノウハウがサービスになる動き。
人の関与	共創、専門家との組み合わせが既に存在。	質問への回答、確認・修正、導入・定着などの役割を明示。	人と AI の分担を実装上の論点として具体化。
効果の証拠	デモ、利用事例、企業内の活用紹介。	一部で工数削減実績なども公表。	発明の質・権利化成果についての比較証拠は限定的。

5 変化についての考察

5.1 知財部門に届く前の発明発掘

発明発掘では、知財部門に届く前の仕事が重要な競争領域になっている。NTT データや Patlytics の説明に共通するのは、研究者が整った発明提案書を書けることを前提とせず、資料や説明を出発点に質問・整理を進める点である。[\[3\]](#)[\[13\]](#)

これには、認識済みの発明の文書作成を速める効果に加えて、提案されずに埋もれていた工夫を拾う可能性がある。後者確かめるには、作成時間だけでなく、従来なら届出されなかった有望な発明を何件拾えたかを測る必要がある。

5.2 発明案の生成後に必要な評価

複数 AI による議論や周辺発明案の生成は、検討の幅を広げる方法である。一方、複数の AI が同意することと、その技術が実現可能であることは別である。周辺案が増えれば、重複、既知技術、技術的に成立しない案を選別する仕事も増える。

価値を判断する単位は、生成した案の数から、技術者が検証し、事業上の必要性和特許性を確認できた案の数へ移すべきである。これは展示機能の紹介から導いた評価上の提案であり、特定製品の性能に対する実測結果ではない。

5.3 特許情報との接続と MCP

2026 年には AI Samurai、Patsnap、Amplified が特許情報や外部ツールとの接続を前面に出している。MCP は AI と外部データベース・サービスを接続するための仕組みであり、発想と調査の往復を短くできる可能性がある。[4][9][25]

ただし、MCP の採用だけで調査漏れや推論の誤りが解消するわけではない。接続先のデータ範囲、全文取得、検索性能、引用根拠の確認が重要である。2025 年の公式プログラムには商標管理分野の MCP 紹介もあり、MCP 自体の初登場を 2026 年の変化とするのは適切ではない。[15]

5.4 企業内の知財ノウハウのサービス化

Genzo AI は、提供する側の変化を示す事例である。島津製作所は、社内で開発・運用してきた知財業務基盤を外部提供するため、2026 年に IP Agent との新会社設立を発表した。熟練者の思考を形式化する取り組みとともに、2025 年度の社内実績として発明届出業務の工数 50%削減などを公表している。利用企業が知財 AI の提供主体にもなる具体例である。[26]

公表された 50%削減は発明届出業務の工数に関する値であり、有望発明の件数や質が 50%増えたという意味ではない。また、製品サイトでは提供開始時期の変更と、機能の段階的展開が説明されている。当初発表にある全機能を一括して提供済みと扱うことは避けるべきである。[6]

5.5 用途探索と次の発明創出の接続

HackCamp は 2025 年にも複数の特許群からテーマを導く取り組みを紹介している。単一特許から複数特許への転換を、そのまま 2026 年の新規性とすることはできない。今年の説明で注目されるのは、技術・機能の抽出と構造化、横断的な発想、用途仮説を研究開発や出願へ渡す手順が明示された点である。[20][10]

この方向は知財部門の役割にも影響する。保有特許を整理して事業部門へ渡すだけでなく、この技術を別の用途で成立させるために次に解くべき技術課題まで提案できれば、用途探索が次の発明創出につながる。用途名や市場名の列挙にとどまる場合、発明創出への寄与は限定的である。

5.6 フォーラムの問題設定の変化

2025 年の関連フォーラムは、AI による知的創造活動の変化、知財制度、人材を中心に据えていた。2026 年のプログラムでは、AI を前提とした知財戦略、効率化で生じる余力の経営貢献への活用、開発・発明現場への支援などが掲げられている。これはプログラム上の重点の変化であり、個別講演の結論や実際の成果を示すものではない。[27][5]

6 評価の範囲と実務上の確認指標

特許検索・要約・分類・調査レポート生成を主眼とする展示は、発明創出の中核事例と分けた。例えば、2025 年の Patentfield や Summaria の出展説明は、調査・分析・読解などが中心である。これらは発明検討を支える重要な機能だが、その説明だけでは、新しい技術的解決手段を生成する機能の証拠にはならない。[28][29]

この 2 年間の変化を実務上の成果として評価するには、表 5 のような指標が有効と考えられる。工数の削減と、発明の質・数の向上を分け、AI が出力した候補が検証・採用まで進んだかを確認する。

表 5 発明発掘と創出の改善を確認する指標

評価したいこと	確認すべき指標と証拠
発明発掘の改善	見落としていた発明候補の発見数、知財担当者が採用した割合、追加ヒアリングの負担。
発明創出の改善	既知技術との差分、技術的成立性を確認できた案の割合、研究開発テーマに採用された数。
提案書作成の改善	作成時間に加え、修正時間、必要情報の充足率、技術的誤記の有無。
特許網の案の価値	案同士の重複、基本発明との関係、競合の代替手段への対応、検証を要する技術課題。
用途探索の成果	顧客課題の確認、試作・実験への移行、事業部門の採用、次の発明提案への接続。
部門連携の改善	技術者から知財部門への提出率、差し戻し回数、評価・出願判断までの期間。

公開資料から強く確認できるのは、支援方法、接続先、提供形態の具体化である。一方、両年の製品を同条件で比較した発明の質、特許性、権利化率、事業成果のデータは、確認した資料にはない。2026 年の進展を評価する際には、展示・提案の具体化と発明成果の向上を分けて捉えることが重要である。

参考文献

本文中の番号は以下の文献に対応する。同一資料を複数箇所でも引用する場合は同じ番号を用いた。各ウェブ資料の最終閲覧日は2026年9月21日。日付が特定できない資料は、掲載日記載なし又は対象年の情報として示した。

[1] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局。2026 知財・情報フェア&コンファレンス 公式サイト。2026 年開催情報。

<https://pifc.jp/2026/>

参照箇所 会期と開催概要。

[2] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局。前回開催報告 2025 知財・情報フェア&コンファレンス。2025 年開催報告。

<https://pifc.jp/2026/report.html>

参照箇所 2025 年の会期と開催概要。

[3] 株式会社 NTT データ。AI を活用した発明発掘を支援するサービスを先行提供開始。2026 年 8 月 19 日。

<https://www.nttdata.com/global/ja/news/topics/2026/081900/>

参照箇所 サービス内容、2026 年 10 月以降の提供予定、PIFC 出展・デモの案内。

[4] 株式会社 AI Samurai。2026 知財・情報フェア&コンファレンスに出展します 知財 AI エージェント MCP サーバー および AI Samurai ONE の新機能を紹介。2026 年 9 月 9 日。

<https://aisamurai.co.jp/2026/09/09/2026> 知財・情報フェア&コンファレンスに出展しまし

参照箇所 発明御三家、発明ホコタテ、MCP サーバーおよび出展者プレゼンテーション。

[5] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局。2026 知財・情報フェア&コンファレンス 開催案内とプログラム。2026 年版。

<https://pifc.jp/2026/pdf/ipifc2026information.pdf>

参照箇所 全 2 ページ。出展者プレゼンテーションと特別フォーラムは 2 ページ目。変更がある場合は登壇企業の直前告知を優先。

[6] 株式会社 Genzo AI。Genzo AI 次世代知財業務自動化プラットフォーム。掲載日記載なし。

<https://www.genzo-ai.co.jp/>

参照箇所 発明提案書作成、確認・修正を前提とする設計、提供時期と機能の段階的展開。

[7] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局。2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者一覧及び出展者紹介。2026 年開催情報。

<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors>

参照箇所 aiip、amplified ai、知財コーポレーションなどの出展説明。掲載内容が更新される動的ページ。

[8] リーガルテック株式会社。知財 AI 及び関連プラットフォームの公式製品説明。掲載日記載なし。

<https://www.legaltech.co.jp/>

参照箇所 MyTokkyo.Ai、AI IPGenius などの製品一般の説明。会場での実演範囲の証拠とは区別。

[9] Patsnap。第 35 回 2026 知財・情報フェア&コンファレンスに出展いたします。2026 年出展案内。

<https://www.patsnap.jp/event/pif2026>

参照箇所 Eureka、Analytics、MCP、Agent Skills および 9 月 16 日の登壇内容。

[10] 株式会社 HackCamp。セミナー情報 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者プレゼンテーションに登壇決定。2026 年 9 月 7 日。

<https://hackcamp.jp/news/expo-20260902/>

参照箇所 9 月 16・17 日の講演内容。従前の共同講演からの変更を明記。

[11] トヨタテクニカルディベロップメント株式会社。2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展案内。2026 年 8 月 28 日。

https://www.toyota-td.jp/news/files/2026_064.pdf

参照箇所 AI Samurai との共同出展、知財総合コンサルティングなど。

[12] Patlytics。Intellectual Property Information Fair & Conference。2026 年出展案内。

<https://www.patlytics.ai/events/ipifc-9-16-26>

参照箇所 ブース 3-F04、9 月 17 日の講演、特許業務全体の支援と日本語ドラフト作成の案内。

[13] Patlytics。AI-Powered Patent Invention Disclosure。掲載日記載なし。

<https://www.patlytics.ai/ai-powered-patent-invention-disclosure>

参照箇所 研究資料・音声入力、追加質問、発明届出書作成などの製品機能。展示内容の補足資料。

[14] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局／Axelidea 株式会社。2025 年 出展者詳細 Axelidea 株式会社。2025 年出展情報。

https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=13

参照箇所 AXELIDEA Patent、Patent Flow、Patent Spark。

[15] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局。出展者プレゼンテーション 知財・情報フェア&コンファレンス 2025。2025 年版。

https://pifc.jp/2025/wp-content/uploads/2025/08/pifc2025presen_v5.pdf

参照箇所 全 3 ページ。swimy、AI Samurai、amplified ai などの講演内容と、商標分野での MCP 紹介。

[16] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局／トヨタテクニカルディベロップメント株式会社。2025 年 出展者詳細 トヨタテクニカルディベロップメント株式会社。2025 年出展情報。

https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=71

参照箇所 生成 AI ツール swimy の機能紹介。

[17] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局／AI データ株式会社。2025 年 出展者詳細 AI データ株式会社。2025 年出展情報。

https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=31

参照箇所 MyTokkyo.Ai の発明抽出、先行技術調査、発明提案書作成。

[18] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局／株式会社 AI Samurai。2025 年 出展者詳細 株式会社 AI Samurai。2025 年出展情報。

https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=30

参照箇所 AI Samurai ONE、ZERO などの出展を確認。

[19] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局／Patsnap。2025 年 出展者詳細 Patsnap。2025 年出展情報。

https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=86

参照箇所 Eureka AI Agents による技術テーマ探索、課題分析・解決策提案など。

[20] 株式会社 HackCamp。第 34 回 知財・情報フェア展示会レポート 知財部門の役割に大きな変化 守りの知財部から攻めの知財部へ。2025 年 10 月 15 日。

<https://hackcamp.jp/learning/article/ivan-pifc2025-report/>

参照箇所 開催後報告。ブースの実演、特許群からのテーマ導出、三菱電機との発表。

[21] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局／株式会社 NTT データ。2025 年 出展者詳細 株式会社 NTT データ。2025 年出展情報。

https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=34

参照箇所 初出展、知財特化型 AI・エージェント基盤、技術探索・分析。

[22] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局／株式会社ニーズエクスプローラ。2025 年 出展者詳細 株式会社ニーズエクスプローラ。2025 年出展情報。

https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=73

参照箇所 生成 AI によるアイデア出し、事業案作成、業務適用支援。

[23] 和泉恭子／富士通株式会社。AI 時代の知財制度構築を考える 知的創造活動の変化と知財権 必要な人材とは。2025 年 9 月 11 日。

https://pifc.jp/2025/wp-content/uploads/2025/09/pifc2025f3_003.pdf

参照箇所 特別フォーラム公開資料。PDF の 6 ページ目に発明発掘を含む生成 AI 活用業務を掲載。

[24] 齋藤匡史／ダイキン工業株式会社。2025 知財・情報フェア&コンファレンス 特別フォーラム 3 公開講演資料。2025 年 9 月 11 日。

https://pifc.jp/2025/wp-content/uploads/2025/09/pifc2025f3_002.pdf

参照箇所 一部は当日のみ掲載する旨の表示があり、公開版から具体的事例を復元できない。

[25] Amplified。A Patent Practitioner's Guide to MCP。2026 年 3 月 24 日。

<https://www.amplified.ai/ja/blog/24032026/what-is-patent-mcp/>

参照箇所 LLM と特許データベースを接続する MCP の説明。提供企業による技術解説。

[26] 株式会社島津製作所。知財業務自動化 SaaS 提供の子会社 Genzo AI を設立 当社知的財産部の独自開発プラットフォームを 4 月から社外へ提供。2026 年 3 月 25 日。

<https://www.shimadzu.co.jp/news/2026/acmnk57uqb3579ay.html>

参照箇所 新会社設立と 2025 年度の社内実績。提供時期は後日の Genzo AI 公式サイトの更新も参照。

[27] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局。2025 知財・情報フェア&コンファレンス 来場案内及びセミナー情報。2025 年開催情報。

<https://pifc.jp/2025/visit/>

参照箇所 特別フォーラム 3 のテーマ、登壇者、公開資料。

[28] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局／Patentfield 株式会社。2025 年 出展者詳細 Patentfield 株式会社。2025 年出展情報。

https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=91

参照箇所 特許調査・分析・分類を中心とする出展説明。

[29] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局／パテント・インテグレーション株式会社。2025 年 出展者詳細パテント・インテグレーション株式会社。2025 年出展情報。

https://www.expo-form.com/united2025/usr_detail.php?ucd=89

参照箇所 Summaria の読解・要約・比較・調査支援など。